令和8年度　学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく、夢に向かって羽ばたく人 （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 （3）多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	《目指すべき姿》	学校像	①　子どもたちが楽しく学べる学校 ②　保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③　地域にとってなくてはならない存在の学校 ④　教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき姿の概要
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子どもたちを誰一人取り残さない、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包括的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「高知家」の教育・学びの充実に向けた各種施策を総合的・計画的に推進するために、必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備		児童生徒像	「明るく　たくましく　生き抜く力をもった生徒を育てる」 ①　自己決定できる生徒（見つけよう！なりたい自分） ②　自ら就労を目指す生徒 ③　生活習慣が確立し社会的行動ができる生徒 ④　地域と連携し、貢献できる生徒	Ⅰ就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上 ・生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上 Ⅱ職業生活に必要な力の育成 ・生徒一人一人のニーズに応じた職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活や社会生活に必要な力の育成 Ⅲ地域貢献の推進 ・地域における清掃活動やボランティア活動等貢献活動の実施における生徒の自己効力感の高揚 Ⅳ働き方改革 ・ワーク・ライフバランスを考え、互いに協力し合う職場づくり Ⅴ不祥事防止に向けた取組 ・教職員の倫理観の堅持 ・不祥事防止対策の徹底 ・よりよい職場風土づくり

《重点取組項目》

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目	取組のねらい 【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容 【D】	中間評価 【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価 【C】	学校関係者評価	見直しのポイント 【A】
専門性の向上・教育内容の充実 就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上	就労による自立を目指す生徒の育成のため、生徒一人一人の「実態を把握する力」及び各教科における「指導力」の向上を目指す。	【現状】 ○R7年度は、自立活動の視点に基づいた実態把握や中心課題の導き方を研修で学び、課題克服に向けた授業実践に努めた。 △生徒個々の課題克服に向けた取組をより一層充実させる必要がある。 【目標】 ◎各教科を下支えする自立活動と教科指導との関連を考えた授業実践を行い、指導の充実を図る。 【評価指標】 ①自立活動の指導内容と各教科との関連が分かり、授業改善ができているとの回答：7割 ②指導方法や手立てを工夫することにより、生徒が学習内容を十分理解できているとの回答：7割以上	・教務研究部及び自立活動推進委員会により、「自立活動」「教科指導」に関する研修等を計画的に進め、授業者の授業改善を支援する研究体制を構築する。 ・各グループ、各学年、各教科において、単元計画や学習指導略案を作成するとともに、事後協議において授業改善を図る。 ・生徒の心情等の理解を深めるため、SCやSSW、外部専門家と連携し、より適切な指導支援を実践する。 ・GIGAｽｸｰﾙｻﾎﾟｰﾀｰやICT研修等により、使用方法等を学ぶなどしてICT機器の活用能力の向上を図る。	B	・自立活動推進委員会を主軸として、方向性の統一と進捗確認、実践を図っている。 ・自立活動では、学習グループ内で略案により教員間の共通認識のもと個々に合わせた支援を行っている。学習展開を検討し改善を行いながら実践している。 ・必要に応じてSCやSSWと情報共有を行っているが、クラス全体で連携できるとよい。 ・生成AIの生徒向け端末での開放に向け、夏期休業中に2回の教職員研修を行った。 【第1回学校評価アンケート（肯定的回答）】 ①教職員：77.3% ②保護者等：97.6%、教職員：95.5%	・各学年の学習グループが適切であるか検討し、見直しを図る。自立活動と各教科との関連性について教員一人一人が考えを深める。1年団は4つのグループ分けを行う。 ・授業の様子を撮影し動画で授業の振り返りを行うなどして、生徒の課題克服を目指して授業改善を図っていく。 ・引き続き、必要に応じて、SCやSSW、外部専門家と情報共有を行う。 ・生徒への生成AIの使い方について、指導上の課題等について共有を図っていく。			
キャリア教育の充実 職業生活に必要な力の育成	生徒一人一人のニーズに応じた職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活や社会生活に必要な力を育成する。	【現状】 ○JSP制度の活用や関係機関との連携等により、生徒の進路実現がほぼできている。 △生徒に関する情報共有のため、各クラスと作業担当者との連携をより深める必要がある。 【目標】 ◎進路実現100%及び離職率の低減 ◎職業的・社会的自立に向けた支援の充実 【評価指標】 ①特別支援学校技能検定や障害者技能競技大会（アビリンピック）に向けて、生徒が主体的に取り組むことができたとの回答：7割以上 ②進路実現に向けて、ステップアップシートの活用等により、将来の職業生活に必要な力を育めているとの肯定的回答：7割以上	・進路相談支援部により、ニーズに応じた実習先の検討、進路部便りでの情報提供、関係機関との連携、アフターケア、研修会及び学習会等を計画・実施する。学部と協働し、生徒の職業観の育成に努める。 ・総務部により、PTAのニーズに応じて、研修を計画・実施し、参加者増を図る。 ・学部全体において、ステップアップシートを活用しながら、生徒の自己・他者理解につなげ、進路実現に向け有効に活用する。 ・生徒保健部を中心に、生徒の意欲向上に結びつくよう、また各教科の実践を生かすことができるよう、部活動や学園祭等の行事を開催する。	B	・進路便りは、2学期以降、例年通り5～6回発行する予定。2月に就労支援会議、3月に2年生の進路相談会を開催する予定。この他、進路研修会、進路学習会、移行支援会議を実施する。アフターケアも引き続き行う。生徒の進路実現に向け、家庭と情報共有していく。 ・3年アビリンピック2部門で2名が金賞を受賞した。 ・部活動は今年度初めて夏期休業中に3日実施した。各行事含め、活躍の場を多くもてるよう計画することで、意欲的な参加や生き生きとした活動につながっている。 【第1回学校評価アンケート（肯定的回答）】 ①生徒：88.1%、保護者等：85.4%、教職員：100% ②保護者等：87.8%、教職員：100%	・進路便りは、2学期以降、例年通り5～6回発行する予定。2月に就労支援会議、3月に2年生の進路相談会を開催する予定。この他、進路研修会、進路学習会、移行支援会議を実施する。アフターケアも引き続き行う。生徒の進路実現に向け、家庭と情報共有していく。 ・第2回PTA校内研修は内容を含めPTA役員会での承認を経て実施を行う予定。 ・情報機器の活用の学習を進める。また、ステップアップシートは今後も懇談で有効活用していく。 ・部活動は、引き続き、限られた時間内で充実した活動になるように取り組んで行く。			
学校設定項目 地域貢献の推進	地域における清掃活動やボランティア活動等の貢献活動を通して、働くことの意義を確認しながら、生徒の自己効力感を高めていく。	【現状】 ○地域の催しへの参加や各作業等において地域貢献活動ができた。 △多様な人との関わりが少なく、コミュニケーションに苦手を感じる生徒が多い。 【目標】 ◎地域貢献活動に取り組むことで、社会の一員としての存在感や生きがいを感じるとともに、地域交流ができ価値観が広がる。 【評価指標】 ・学校は地域との連携に積極的に取り組んでいるとの肯定的回答：7割以上	・管理職は地域との連絡調整を行う。積極的な参加を図る。 ・生徒保健部、総務部及び各作業担当は必要物品等の準備や計画・実行及びサポートを行う。 ・学部全体により、生徒たちへボランティア活動への呼びかけを行う。 ・各作業により、多様な職業が社会の役割や貢献につながっていることの気付きを促す。	A	・地域の会に積極的に参加し、8月末には地域社協より依頼を受けて学校取組の紹介を行った。 ・城西公園清掃は雨天のため中止したが、その他は予定どおり実施できている。 ・各ホームで生徒の積極的な参加の促しにより、ボランティアへの参加人数が増えた。 ・作業学習では地域貢献活動ができた。（物流：ポスティング、封筒づくり等、環境：出張清掃、フード：喫茶営業、接客等） 【第1回学校評価アンケート（肯定的回答）】 ・保護者等：92.7%、教職員：100%	・11月3年地域交流事業餅つき大会は初の取組となる。地域とより交流を深める。 ・生徒保健部は担当行事の中で地域貢献活動の内容を検討する。 ・地域貢献の意味や目的を考え、新たな発想を促す。 ・各作業実践で、引き続き地域に貢献できる活動を続け、地域貢献の意識を高められるようにする。			
働き方改革	ワーク・ライフバランスを考え、互いに協力し合う職場づくりに努める。	【現状】 △業務量が多く、勤務時間内で対応できない現状にある。 【目標】 ◎チームで補完し合う職場づくり 【評価指標】 ・クラス・学年・分掌の枠を超え、教職員全員で協力して学校運営に取り組めたとの肯定的回答：7割以上	・各学年、各分掌部長は、部署内業務の確認と進捗管理を行う。管理職とともに協力体制のもと組織づくりに努める。会議の時間短縮に向け事前共有などしてスムーズな運営を図る。 ・チーム内では互いに声を掛け合いサポートし合う。スクラップ＆ビルドを検討する。 ・管理職は、各長と協力して組織として動くことができるよう組織作りを行う。	B	・すぐーるやHP等の効率的な活用に向けて取り組んでいるが、まだ十分には改善できていない。負担軽減は難しい面はあるが、分担、連携して取り組めている。 ・グループウェアや学年回覧にて会議の時間短縮につなげた。 ・運営委員会前の各部署下話やスケジュール確認の促しを行った。スムーズな学校運営への取組は継続する必要がある。 【第1回学校評価アンケート（肯定的回答）】 ・教職員：90.9%	・すぐーるの活用場面を増やし、保護者への活用の浸透を図っていく。PTA役員会では効率的な提案をしていく。 ・提出書類等、時間に余裕をもって取り組めるよう、早めに声掛けや確認を行っていく。 ・引き続き、協力しながら時間確保を図っていく。			
不祥事防止に向けた取組	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	【現状】 △不祥事防止委員会を設置しているが、活動の充実が必要である。 【目標】 ◎より信頼される学校組織を目指し、不祥事防止対策の徹底を図る。 【評価指標】 ・不祥事防止に関する研修会を年3回以上実施し、自分事として考えることができたとの肯定的回答：9割以上	・生徒の個人情報の取扱い一覧を適宜確認する。家庭配布物に不必要であれば個人名は明記しない。クラス配布物は教員が生徒に渡すようにする。ダブルチェックを確実に行う。 ・各予算の適正な執行に留意する。 ・管理職は運営委員会と同日にて不祥事防止委員会を開催し、不祥事ゼロを目指す。 ・管理職は、不祥事根絶のための校内ルール等の確認を促すとともに、校内研修等を実施し、教職員の倫理観の堅持に努める。	C	・学年便り等は、適宜個人情報の取扱いを確認しながら、写真や名前を入れるようにしている。 ・新しい会を増やすことはせず既存の会に合わせて行い、時間確保を図った。学校全体で不祥事防止を心掛けて取り組んできてはいるが、誤配付等、複数回発生した。 ・不祥事防止研修会にて情報提供や事例報告、誤配付の対策について取り上げ、適宜、注意喚起を行った。 【第1回学校評価アンケート（肯定的回答）】 ・保護者等：85.4%（不祥事防止の積極的取組） 教職員：100%	・配布物については、誤配布がないようにダブルチェックを続ける。ダブルチェック時の数の確認や指差しでの確認を徹底する。 ・クラスでの配付物の減少に向け、すぐーる等の代替手段で可能なものについて各部署で検討・実施する。 ・改善意見を募り、マニュアルの見直しを図る。			